

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0191000074), 法人名 (㈱ニチエ学館), 事業所名 (ニチエケアセンター江別), 所在地 (江別市緑町西1丁目110-1), 自己評価作成日 (令和元年8月7日), 評価結果市町村受理日 (令和元年9月18日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご本人が安心、安全に暮らせるよう一人一人にあった環境整備や本人の思いをくみ取れるよう傾聴を行い、ご本人のペースで暮せるよう支援しています。ご家族への情報提供として通信や毎月の献立表、往診や行事案内などを配布しています。又、散歩や地域の行事などへも極力参加できるよう支援をしています。入居者の笑顔がこぼれる行事として花火やバーベキューなど季節感を味わっていただける行事を開催しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JieyosyoCd=0191000074-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和元年8月22日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、江別駅から徒歩10分程、国道や市立病院、コンビニや公園にも近く、利便性と自然に恵まれた環境にある。周辺は閑静な住宅街で、散歩の際には住民と挨拶し合い、野菜や花を頂くなど、地域の事業所として親しまれている。家族以外の訪問者も多く、月数回は傾聴や民謡などのボランティアが来訪し、近隣のこども園からは発表会の招待を受けて交流を重ねている。勤続5年以上のベテラン職員や有資格者が多く在職し、職員同士の連携と共有がスムーズに行われ、利用者一人ひとりの過ごし方や価値観、思いを把握し、その人らしい生活の支援に努めている。食事は、利用者の好みや季節感、収穫野菜も取り入れ、栄養バランスに配慮した家庭の味を提供している。地域行事の盆踊りや落語会などは、楽しみながら心身の機能の維持に繋がる活動として、積極的に参加している。地域の中で、「元気で、楽しく、のんびり」という事業所独自の理念の下、今後の取組みが期待される。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and evaluations.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作成し「地域とともに末永く」と言う文言を入れ地域密着型として理念を確率している。職員は朝、夕の申し送りや唱和する事により周知徹底し支援を心がけている。	地域密着型事業所の姿勢を明確にした理念を申し送り時に唱和し、事業所内で統一したサービスを目指している。日々のケア場面や会議等でも、理念に沿った実践を確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方に日常的に挨拶をし、毎年散歩の途中では花や野菜を頂いたり、町内会行事の盆踊りに参加したり保育園の行事に招待していただいている。	イベントや清掃活動などの地域行事には、都度数名の利用者と共に参加している。保育園の発表会を見学したり、月数回、地域ボランティアの来訪があるなど、地域の人達との交流が多く持てるよう努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年度は認知症の方への支援方法などを地域の方へ情報提供する場を設けることができなかった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し家族や包括支援センター職員、消防、町内会役員などの参加を得て現状報告をした後、ご意見を頂きサービスの向上にいかしている。	運営推進会議は、地域や行政、家族等の協力を得て開催している。写真を掲載した分かりやすい報告書を作成し、事業所の運営や利用者状況、事故等について意見交換を行い、サービスや運営に反映するようにしている。	毎回、家族に会議案内を行っている。今後も開催日の工夫や、議事録を全家族に送付するなどして、事業所の理解や会議参加を促す取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎回、地域包括支援センター職員の運営推進会議への参加して頂いている。江別市には入居状況を1ヶ月に1度報告して事故報告や相談を市の担当者に連絡をとっている。	介護保険課や地域包括支援センターの職員とは、日頃から報告や相談をし協力関係を築いている。運営推進会議内でも情報交換を行い、安心安全な暮らしの提供に生かしている。社協とも連携を図り、ボランティアの活用を進めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修で拘束について研修し、拘束をしないケアに努めている。ご家族から拘束についての話があった場合は拘束しないケアにご理解して頂けるように説明を行っている。玄関、リビングの施錠は20:00～7:00までとしている。	身体拘束をしないケアの実践を全職員で共有し、定期的に研修会を設け、内容の理解を深めている。不適切な言葉使いが見られた場合は、管理者やリーダーを中心に注意喚起をし、抑圧、抑制のないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを整備し、虐待しない取り組みをしている。又、虐待防止スローガン職員が見える位置に掲示して虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の研修に位置づけ成年後見制度などについて学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際は項目ごとに内容を説明している。又、疑問点には十分な説明を行い理解、納得した上で同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見などを聞いたり、ホーム内や社内に苦情窓口を設けている。又、ホーム内に意見箱を設けたり、毎年、顧客満足度アンケートを会社で実施して意見があった場合は改善に取り組んでいる。	家族とは、面会や電話の際にコミュニケーションを図っている。出された要望は直ぐ対応するように努めている。年に1度法人による家族アンケート調査でも、忌憚の無い意見を得て、より良い事業所作りに生かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議などで意見や提案を受け付けする機会を設け、運営に反映できるようにしている。	毎月の会議や業務の中で、職員の意見や提案の発言があり、ケア面や業務改善に繋げている。人事考課制度により、年2回個別に話し合う機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ケアスタッフのキャリアアップ試験など。目標を持って働けるような取組みを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の年間研修計画に基づき研修を受ける機会の確保や、外部の研修の案内をしてスキルアップできる機会を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者及びリーダーは定期的にグループホームの管理者会議に参加して情報の共有に努めている。参加できない場合も情報共有として会議議事録を提供してもらい他事業所の情報を共有し質の向上に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談を行い、アセスメントをしっかり行いご本人が安心して過ごして頂けるようにしている。入居後も不安や困っている事がないように傾聴に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から困っている事や不安な事などの要望を伺っている。入居後も安心して生活が出来るように連絡をこまめにとりながら不安などを早期に解決できるように支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に必要な支援を見極め優先順位の高いもの支援の中心と捉え、支援内容を検討し介護計画を立て実施している。訪問内容や歯科往診などもご本人と家族と相談の上、必要に応じて取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を手伝っていただいたりバーベキューの準備や焼き係りを行ったり、畑おこしなどをしていただいたり喜怒哀楽を共有しあえるように心がけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などの案内をしてご家族に参加していただき、ご本人と家族が関われる機会を作っている。又、ご本人と散歩や食事介助等、本人や家族の要望に合わせて行なっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の来訪があった時には継続できるように支援している。	事業所は訪問しやすい場所にあり、自宅近所の人や友人達には、居室で気兼ねなく過ごしてもらい、再訪に配慮している。地域の集まりに参加したり、馴染みの店に行くなど、親しい人や場との関わりが継続できるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、座る位置などに配慮して良い関係が築けるように努めている。又、レクリエーションや外出の時間を設け交流できる機会をも設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要に応じて相談や連絡が取れる体制をとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族から生活歴を聞き、その方にとっての暮らしやすさを考慮し、支援内容を検討している。言葉で思いや希望を表現できない方には表情や動作から思いを汲み取るように努めている。	思いや意見の表出が困難な人も、表情や仕草、気分の変化などの把握で、思いの推察を図っている。その人なりの快や不快、好みなど理解することで、意に沿う支援ができるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約後、ご家族にセンター方式の記入を依頼し生活歴や生活環境の把握に努めている。入居後もご本人や家族から伺った情報を追記している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時に管理日誌の確認を行なうと共に、朝、夕の申し送りで職員が情報を共有し現状の把握に努めている。又、1日2回のバイタルチェックをし体調に変化がないか観察している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者が本人、職員にモニタリングを行い、意見を取りまとめた上でカンファレンスにて課題と支援内容について話し合いをおこなっている。担当者会議にはご家族にできるだけ参加して頂き、ご家族の意向を伺い現状に即した介護計画を作成している。	介護計画の見直しは、事前に本人、家族の意向を確認し、3、4か月毎にモニタリング、アセスメントを経て、職員や関係者らの意見を取り入れ、現状に即した支援計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護の実践などは個別記録に記録し職員間で共有している。状態の変化があった場合は都度、カンファレンスを行い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護師、往診医などに対応策を相談すると共に、ご本人やご家族の希望がある場合は訪問マッサージなども取り入れニーズに合わせ柔軟な支援やサービスが提供出来るように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティア、民謡ボランティア、町内会の婦人部の行事や保育園の行事への参加をして入居者が楽しく過ごす事が出来るように支援している。又、消防の協力を頂き避難訓練を実施し安全に生活できるようにこころがけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を確認し提携病院の往診を受けている。受診内容は「健康管理記録」に記載し、家族に報告している。緊急時はかかりつけ医に連絡、相談し早急に適切な医療を受けられるように支援している。	本人と家族の希望を尊重した医療受診を支えており、協力医師による月2回の訪問診療も利用している。かかりつけ医や専門外来へは家族が同行し、訪問看護師に緊急時や日常的な相談をしながら、適切な医療を受けられる体制を整えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に訪問看護師に来ていただき、前日には1週間の入居者の方の情報提供し、処置や看護をしていただいている。訪問時以外でも電話対応などでアドバイスや相談をさせていただき、研修なども依頼している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報を提供したり、退院時の受け入れ態勢などの情報交換をしている。又、退院前の医師とのカンファレンスに参加させていただき、ご本人の心身の状態の情報をいただき、退院後の留意点などを確認相談している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に「重度化した場合の対応に関わる指針」を家族に説明し、同意書を取り交わしている。又、その際事業所のできる対応の範囲を伝えて、出来るだけ早い段階で医療と連携しチームでの支援に取り組んでいる。	重度化した場合の対応は、入居時に方針を伝え、変化の兆しの段階で話し合い、重篤時の対応を確認している。利用者、家族の希望を受け留め、総合的に環境が整った際には、看取り支援を行う方針であり、終末期ケアの研修を予定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルに添って迅速な対応に努めている。又、救急搬送のときには消防隊との情報共有が迅速にできるように入居状況一覧表を作成している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中と夜間を想定した避難訓練を消防署の協力のもと行っている。又、概ね毎月定期的に自主避難訓練をおこなっている。消防立会い訓練時には町内会や近隣への参加依頼を町内会の方に参加して頂いている。	消防署の指導の下、昼、夜を想定した避難訓練を実施し、自主的訓練も年数回行っている。近隣には訓練の参加を要請している。水、食料等非常用備蓄品を準備し、廊下の目に付く場所に一時避難場所を掲示している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格、誇りを大切にしことばかけや対応に配慮している。きになる言葉使いや対応などは都度、注意してカンファレンスなどで確認するようにしている。	職員は、接遇やプライバシー保護の研修を受けている。1ユニット9名との親密な関係が馴れ合いにならないよう、認知症の人の視点に立ったケアを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し自己決定ができるように声掛けを行なっている。入浴やレクリエーションの参加有無なども本人の意思を確認し参加していただき、飲料なども本人の嗜好に合わせて提供するようにこころがけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを大切に、入浴や散歩の支援などもその方のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服を自分で選んでいただいたり、定期的に訪問美容室が来訪し散髪をして身だしなみに気をつけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下準備や片付けと一緒にいき、献立作成時には入居者の希望や季節の食材を取り入れている。	献立に好みや季節感を盛り込み、週1回はパン食にするなど、美味しく希望に添える手作りの食事を工夫している。芋餅を皆で作ったり、誕生会や庭先でバーベキューランチなど、行事的な食事でも変化を楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮した献立づくりを心がけており、チェック表を利用し食事量や水分量がわかるようにしている。又、個人の状態に合わせ刻み食やミキサー食を提供し、食事量の低下がある場合は医師と連携をはかり代替品などを用意し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの誘導をしている。自分で出来ない方には介助しており、口腔内や歯、義歯に問題がある場合は本人、家族に確認して訪問歯科の往診を受けて治療や口腔ケアをしていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	水分、排泄のチェック表を利用してその方の排泄パターンに合わせて声掛けを行いトイレ誘導し、トイレでの排泄に向けて支援している。カンパレンスなどでオムツの使用が必要か見直しをかけ減らすことに努めている。	入居時に排泄状況を把握し、その人の力を活かした排泄支援を検討している。状況を見ながら、全介助の人もトイレで排泄できるよう介助している。衛生用品の使用は、状態に合わせて細かく変更を見直している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への動きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確保に努め、献立作成時には繊維質の多い食材を取り入れたり、腸内環境にいい飲料などを毎日提供している。又、体操や歩行運動を促し便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、入浴が出来る体制を整え、時間や湯加減などは入居者の希望を確認し、週2回程入浴を実施している。又、入浴剤を入れたりして気分転換をはかっている。	週2回の入浴で、時間や湯量、同性介助の希望に対応し、入浴剤も好みに合わせて使用している。入浴が苦手な人には無理強いせず、スムーズに入浴できる声掛けや時間変更をして、保清に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活習慣に合わせて、過ごしていただいたり、その時々体調や疲労感に応じて休息していただいたり、促したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容説明書は個人ファイルに保管し、変更があった場合は申し送りなどで職員が情報共有し、服薬時は二重チェックを行い、本人確認の声だし確認、飲み込み確認まで行っている。服薬後の飲み忘れ確認もおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝いなどで役割を持っていただき、多様なレクリエーションや気分転換を図れるよう外気浴をしたり、買い物支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雪が積もる前までは可能な限り毎日散歩の支援をしている。地域の保育園の発表会やパークゴルフ大会や盆踊りなどの外出行事なども楽しんでいただいている。又、ホームでの外出行事としてご家族への案内をし参加していただき協力をして頂いている。	積雪の無い時期は、車椅子でも戸外に出る事を常として、畑や花壇を眺めたり、散歩に出掛けている。地域行事の参加も楽しみの一つとして、出掛けられるよう機会作りをしている。職員と一緒に買い物をしたり、家族の協力を得て希望の外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に本人、家族に説明し同意を得て金銭の所持をしていただいている方がいる。使用する際は見守りや助言を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話の取次ぎや手紙のやりとりができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室と脱衣所は入浴後も温度差がないように床暖となっており、居間や廊下、トイレなども清潔を保つようにしている。壁には季節感を感じられるように装飾したり、時間がわかるようにしている。	居間の他に畳スペースがあり、其々の居場所作りや空間活用が容易になっている。季節的な装飾や大きなカレンダー、日めくりも掲示され、寛ぎの場で不安なく過ごせるようにしている。プライバシーに配慮し、居間にあるトイレにカーテンを取り付けるなど、利用者目線の工夫を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の位置など気のあった方と会話ができるように考慮して配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には馴染みの人形や家具など、又、装飾品を持参していただき心地よい空間となるようにご家族の方にお話して協力していただいている。	居室には、大切にしているものや趣味の物品などを持ち込み、家族とも相談しながら、整理や本人の好む装飾をしている。窓の開閉や換気など、その時々温・湿度にも注意し、自室として心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	時計やカレンダーを目につきやすい場所へ設置し、廊下やトイレ、浴室には手摺を設置している。トイレ前には目印になる模様が施され、安全且つ自立した生活が送れるように支援している。		